

▶ [トップページ](#)

▶ [会社情報](#)

▶ [製品紹介](#)

▶ [品質への取組み](#)

▶ [安全・安心への取組](#)

▶ [特徴原料の取組み](#)

▶ [採用情報](#)

▶ [お問合せ](#)

▶ [個人情報保護方針](#)

▶ [関連リンク](#)

特徴原料の取組み

PHF/NON-GMO原料の取組み

とうもろこしの世界最大の輸出国である米国では、害虫耐性や除草剤耐性の遺伝子を組み込んだGMO(遺伝子組み換え)種子の作付け比率が85%を超えています。我々JAグループでは消費者からの要望に答え、PHF/NON-GMOとうもろこしを使用した配合飼料の供給のためにIPハンドリングを実施しています。

※IPハンドリングのパンフレットがございます。
ホームページよりご覧ください。

PHF (post harvest free) ポストハーベストフリー: 収穫後農薬不使用のこと

収穫後に保管のための農薬を使わないことです。

NON-GMO (non-genetically modified organism): 非遺伝子組み換えのこと

遺伝子組み換えをおこなっていない作物のことです。

IPハンドリング (identity preserved handling): 分別生産流通管理のこと

飼料穀物の栽培・収穫・貯蔵・輸送から配合飼料の製造・供給まで徹底した分別管理を行うことです。

中国産PHF/NON-GMOとうもろこしについて

PHF/NON-GMOとうもろこしの安定供給確保のため、全農は産地多元化の一貫として、2009年5月から中国産のPHF/NON-GMOとうもろこしも扱っています。

米国産と同様に、生産・産地保管・物流・輸出までの各段階でのIPハンドリングを行い、品質的にも米国産と同等に扱っています。

飼料用米の取組み

当社の平成21年産国産飼料用米の取組みについて

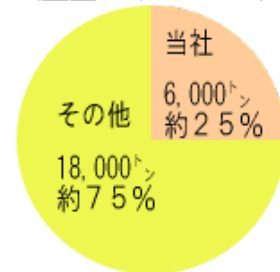
日本の米どころである東北に位置する当社では、平成20年度から始まった国産飼料用米を積極的に使用し、畜産農家からの「畜産物に付加価値をつけたい」という要望に応える配合飼料を製造しています。

1. 平成21年度の国産飼料用米数量

飼料用米生産数量
(全国4,069ha、24,000トン)

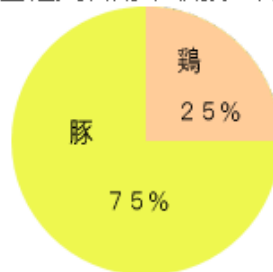


当社取り扱い飼料用米数量
(全国24,000トン)

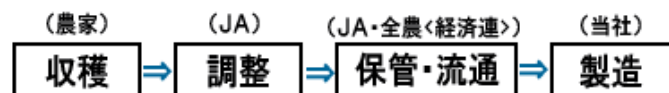


2. 畜種構成比率

当社飼料用米取扱い件数



3. 国産飼料用米の流れ・機能について



4. 国産飼料用米の品質基準

水分	異種穀粒			異物
	もみ	麦	もみおよび麦を除いたもの	
15.0%以下	1.0%以下	0.7%以下	1.0%以下	0.6%以下

(残留農薬、カドミウムなどの基準値は、食品衛生法に定める基準を準用する。)